

3. セメントモルタルによるタイル張りの密着工法において張付けモルタルは2層に分けて塗り付けるものとし、1層目はこて圧をかけて塗り付ける。張付けモルタルの1回の塗付け面積の限度は、張付けモルタルに触れると手に付く状態のままタイル張りが完了できることとし、 $\boxed{a}$  m<sup>2</sup>/人以内とする。目地はタイル張付け後、 $\boxed{b}$  時間以上経過した後、張付けモルタルの硬化を見計らって、目地詰めを行う。目地の深さは、タイル厚さの  $\boxed{c}$  以下とする。

	a	b	c
①	5	12	1/4
②	4	12	1/3
③	4	18	1/3
④	2	18	1/2
⑤	2	24	1/2

4. 硬質ポリ塩化ビニル管製たてどいにおける受金物の形式は、原則として、 $\boxed{a}$  を丁番造りとし、 $\boxed{b}$  金物に  $\boxed{a}$  を小ボルト2本締めとする。たてどい受金物の取付けは、コンクリート下地の場合は、原則、 $\boxed{b}$  金物を割りつめ折りとして深さ  $\boxed{c}$  mm程度埋め込み、鉄骨下地の場合は溶接又は小ボルト留めとする。

	a	b	c
①	帯鉄	足	80
②	帯鉄	腕	80
③	帯鉄	足	60
④	輪鉄	腕	60
⑤	輪鉄	足	60

5. 軽量鉄骨壁下地のランナは端部を押さえ、間隔  $\boxed{a}$  mm程度に打込みピン等で、床、梁下、スラブ下等に固定する。ただし、鉄骨、軽量鉄骨天井下地等に取り付ける場合は、タッピンねじの類又は  $\boxed{b}$  で固定する。スタッドの上下は、ランナに差し込む。振れ止めは、床面ランナ下端から約  $\boxed{c}$  mごとに設ける。ただし、上部ランナ上端から400mm以内に振れ止めが位置する場合は、その振れ止めを省略することができる。

	a	b	c
①	450	ボルト	0.9
②	600	ボルト	0.9
③	600	溶接	1.2
④	900	溶接	1.2
⑤	900	溶接	1.5

6. ロックウール吹付け厚さは、所定の厚さの1.2倍程度とし、こてで圧縮して所定の厚さに仕上げる。ただし、化粧面でなく、必要な  $\boxed{a}$  が得られる場合は、この限りでない。

仕上げ吹付け厚さ  $\boxed{b}$  mm以上ではく離のおそれのある場合は、亜鉛めっき鋼板製のとんぼを5個/m<sup>2</sup>以上取り付け、1回目吹付け後にこてで圧縮し、とんぼの足を折り曲げ、2回目を吹き付け所定の厚さに仕上げる。吹付け後、 $\boxed{c}$  日間程度の自然乾燥を行う。施工中及び乾燥中は、振動、衝撃等を与えない。

	a	b	c
①	厚さ	80	3
②	密度	80	3
③	厚さ	80	3
④	密度	50	7
⑤	厚さ	50	7